

金属資源グループ



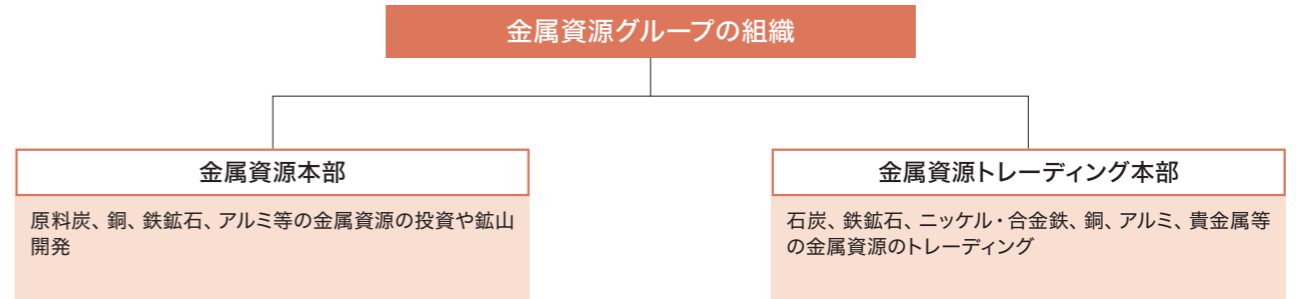
Our Vision



取締役常務執行役員
金属資源グループCEO

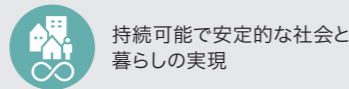
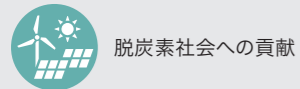
田中 格知

当グループは、これまでも事業環境の変化に応じ事業モデルの変革を重ねてきました。加速する脱炭素、電化、循環型社会への移行という社会環境の大きな変化を捉え、自分たちのビジネスをさらに変革させ、原料供給を通じてEX戦略の推進に貢献していきます。



マテリアリティ

関連するマテリアリティ



事業とマテリアリティとの関連性

カーボンニュートラル社会の実現には電化・再エネ導入が不可欠であり、銅やリチウム・ニッケル(共に電池原料)などの金属資源の需要が飛躍的に増大します。鉄鋼業では、長期的には電炉や水素を利用した製鉄への移行が進む一方、当面は主流であり続ける高炉による製鉄の低炭素化が重要な課題となります。

脱炭素社会に向けた取り組みとして、保有鉱山におけるCO₂排出量削減に取り組むとともに、高炉の低炭素化に資する高品位の原料炭や鉄鉱石の安定供給責任を果たしつつ、脱炭素・電化・循環型社会の3つの社会課題を軸とする新たなポートフォリオへの組み換えを通じ、原料供給の観点からEX推進に貢献します。

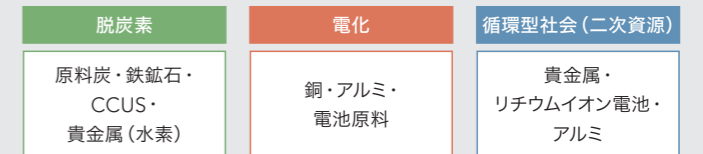
金属資源事業は長期にわたる取り組みです。地域との共生や環境保全への対応など、三価値(経済価値・社会価値・環境価値)同時実現の概念が常に事業の根底を成しており、サステナビリティに対する考え方は事業と一体となっています。低・脱炭素に不可欠な金属資源の安定供給を通じ、持続可能で安定的な社会と暮らしの実現に貢献します。

主要な成長ドライバー

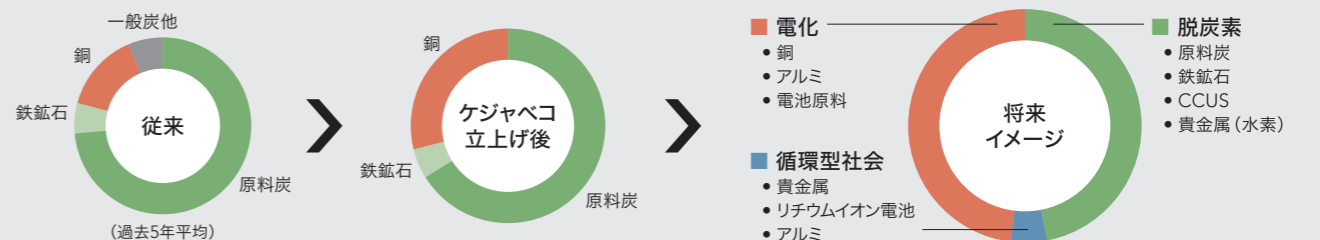
グループEX戦略

EX推進に向け、低・脱炭素に不可欠な金属資源への取り組みを強化し、具体的な案件の実行に着手

- 高品位原料炭・鉄鉱石の安定供給。電炉拡大に資する直接還元鉄や、CCUS技術の普及、水素社会に不可欠な貴金属などの可能性追求。
- 電化に不可欠な次世代資源の供給力拡大
- 二次資源への着手



収益構造イメージ(トレーディングを除く)



グループの強み・戦略

グループの強み	<ul style="list-style-type: none"> 世界最高水準のコスト競争力と品質を兼ね備えた優良資産を保有 長年構築してきた業界プレゼンスを活かした、大手資源会社をはじめとする主要プレーヤーとの強固なパートナーシップ トレーディング事業で培ったグローバルな顧客基盤を通じて得られる業界インテリジェンスと業界プレイヤーとしてのプレゼンス、ならびにこれをてこにした新規優良投資案件の発掘 外部環境の変化に応じて事業モデルを変革し、成長につなげられる適応力
中期経営戦略2021総括	<ul style="list-style-type: none"> 世界最高水準のコスト競争力と品質を兼ね備えた優良資産をさらに磨くとともに、外部環境を踏まえ、金属資源投資ポートフォリオの強靱化を目的に複数資産の撤退を完了しました。 成長に向けた取り組みとしてケジャベコ(銅鉱山)の開発、オールクン(ポーキサイト鉱山)事業へ参画しました。 トレーディングにおいて、地道な顧客開拓やリスク管理体制の強化に努め、持続的な事業成長を実現しました。
中期経営戦略2024における戦略	<ul style="list-style-type: none"> 鉄鋼業の低・脱炭素に貢献すべく、高品位の原料炭や鉄鉱石の安定供給を果たしつつ、電炉拡大に資する直接還元鉄や、CCUS技術の普及、水素社会に不可欠な貴金属などの可能性を追求していきます。 電化を支える素材として、銅の内部成長機会(既存資産の生産量維持・拡大)に取り組むとともに、新規優良資産の取得や革新的な銅回収技術の活用にも挑戦します。また、電池原料のリチウム・ニッケル、アルミ原料のポーキサイトといった次世代資源への取り組みを強化します。 循環型社会を見据え、貴金属・リチウムイオン電池・アルミにおける二次資源の活用に取り組みます。
今後の成長見通し	<ul style="list-style-type: none"> これまで磨いてきた強固な資産ポートフォリオを軸に、EX戦略の推進に向けて、脱炭素・電化・循環型社会の3つのテーマを切り口に、脱炭素に不可欠な金属資源への取り組みを強化していきます。

ビジネスモデルの事例

金属資源の探査・開発・生産・販売を行うオーストラリアMitsubishi Development Pty(MDP)社は、パートナーであるBHP社と共に、年間生産量約63百万トン、海上貿易量の約3割のシェアを持つ世界最大規模のBMA原料炭事業を運営しています。BMAでは7つの炭鉱に加え、鉄道、港を一体保有しており、高炉製鉄法の低炭素化に貢献する高品質な原料炭の安定供給責任を果たしていきます。

脱炭素社会への移行により、電炉製鉄法の拡大や新技術の普及等により原料炭需要への影響が想定されますが、脱炭素シナリオ下から試算される事業環境においても、BMAが産出するような高品位原料炭の需要は、引き続き高く維持される見込みです。

また、事業環境の変化を見据え、BMAでの生産プロセスで排出される温室効果ガス削減に取り組むとともに、原料炭事業のパートナーであるBHP社と共同で、原料炭バリューチェーン全体での排出量削減に資する研究支援に取り組んでいます。



ケジャベコはペルー共和国南部に位置する大規模銅鉱山で、約890万トンの埋蔵量および約36年の山命を見込み、高いコスト競争力を有しています。パートナーのAnglo American社と共に開発を進め、2022年に銅精鉱の生産を開始しました。当社の持分銅生産量は現在20万トン/年超と本邦最大規模ですが、本鉱山の本格的な立ち上げ後、約1.5倍に増加し32~37万トン程度となる見込みです。今後も、再生可能エネルギーを中心とした電化の進展やEVの普及等、カーボンニュートラル社会実現に不可欠な資源である銅の確保と安定供給に取り組んでまいります。



当社持分生産量の推移と成長見通し

